

日常の中の何気ない言葉でも、  
知らぬ間に誰かを傷つけているかもしれません。

彼女いないの？  
(彼氏)

結婚しないの？

恋愛対象は、異性だけとは限りません。男性の恋人は「彼女」、女性の恋人は「彼氏」と想定されがちですが、「パートナー」や「恋人」など、性別を限定しない表現にしてみましょう。また、結婚や子育てを前提として話すことは、差別や偏見につながる可能性もあります。

女らしくしなさい  
(男らしく)

性のあり方は、人それぞれです。「男なら男らしく、女なら女らしく」といった性別を理由とした言動でも、誰かを傷つけているかもしれません。

あの子ホモらしいよ

友人との会話や周囲の会話で、「ホモ」「レズ」「おかま」「おなべ」「オネエ」などの言葉を聞いたことはありませんか？これらは、差別的な用語で、近くで聞いた当事者を傷つけてしまうかもしれません。

## 身近に「いない」のではなく、「気づいていない」可能性も

あなたのまわりに、性的マイノリティ当事者の友人・知り合いはいますか？この質問に多くの方が、「いない」と答えるかもしれません。

LGBTを含む性的マイノリティ当事者は、日本の人口の「9.7%」という調査結果があります\*。約10人に一人は性的マイノリティ当事者です。

性的マイノリティ当事者が「身近にはいない」「これまで出会ったことがない」のではなく、**気づいていないだけ、打ち明けられていないだけ**かもしれません。

性的マイノリティ当事者の中には、差別や偏見を恐れて当事者であることを悟られないようにしている人も多くいます。

※株式会社電通グループによる「LGBTQ+調査2023」。

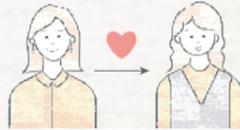
**コラム** 多様性を象徴するレインボー  
さまざまな色が存在することで成り立つ、虹——。性のあり方は多様で、グラデーションのよう——。性的マイノリティの尊厳と社会運動のシンボルとして、1970年代から世界中で使用されている虹色の旗「レインボーフラッグ」は、赤・橙・黄・緑・青・紫の6色で構成され、性の多様性を表現しています。

## LGBTって？

LGBTとは、次の言葉の頭文字をとった言葉で、性的マイノリティ(性的少数者)を表す総称の一つとして使われています。

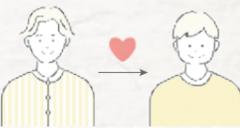
**Lesbian**  
レズビアン

女性を好きになる女性



**Gay**  
ゲイ

男性を好きになる男性



**Bisexual**

バイセクシュアル

女性も男性も両方好きになる人



**Transgender**

トランスジェンダー

生まれたときの性と自分が思っている性が一致しない人



## 特集

# 色、いろいろ。

## —性の多様性を知っていますか—

みなさんは「LGBT」という言葉を見たこと・聞いたことはありますか？言葉を知る人は多くても、多様な性のあり方について、理解が進んでいるとは言えず、偏見などから生きづらさを感じている人がいるのが現状です。

市では、性別にかかわらず誰もが個性と能力を十分に発揮できる社会を目指しています。この特集をとおして、性の多様性について考えてみませんか。

市ホームページは  
こちら▶



問合せ/男女平等参画課(☎226-3161)

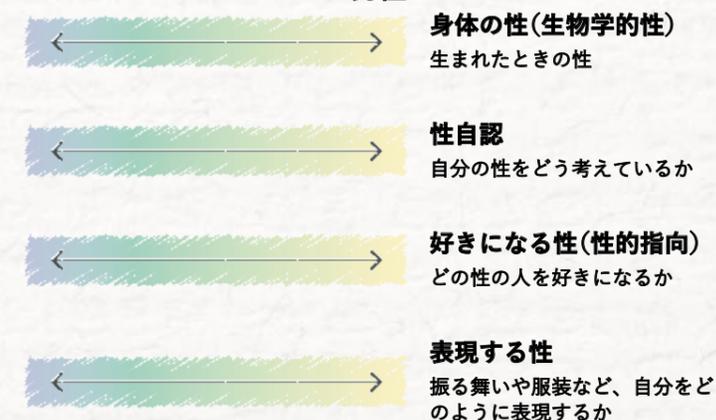
## 性のあり方はグラデーション

性別は生まれた時の身体的な特徴などにより判断されますが、自分で認める性や表現の仕方は多様であり、「男性」「女性」の2つだけではありません。誰にでも性のあり方の要素は、「身体の性」「性自認」「好きになる性」「表現する性」の4つがあるといわれ、それぞれが組み合わさってできています。

下の図の、それぞれの要素で自分が当てはまると思った場所に丸を付けてみてください。この位置は100人いれば、100通りあります。一人一人、性格や顔が違うように、性のあり方も人それぞれで、グラデーションのように境目がありません。

女性

男性



## 人権課題としての「性的マイノリティ」

現在日本では、17の主な人権課題が取り上げられています。人権とは、すべての人が人として社会の中で自由に考え、自由に行動し、幸福に暮らせる権利です。誰にとっても身近で大切なもので、違いを認め合う心によって守られるものです。この中に「性的マイノリティ(性的少数者)」に関する課題も含まれています。

〈17の主な人権課題〉

① 女性	② こども	③ 高齢者
④ 障害のある人	⑤ 部落差別(同和問題)	⑥ アイヌの人々
⑦ 外国人	⑧ 感染症	⑨ ハンセン病患者・元患者やその家族
⑩ 刑を終えて出所した人やその家族	⑪ 犯罪被害者やその家族	⑫ インターネット上の人権侵害
⑬ 北朝鮮当局によって拉致された被害者等	⑭ ホームレス	⑮ 性的マイノリティ
⑯ 人身取引(性的サービスや労働の強要等)	⑰ 震災等の災害に起因する人権問題	

※出典…法務省人権擁護局：啓発冊子「人権の擁護」(令和5年9月発行)。

こんな制度があります

## いばらきパートナーシップ宣誓制度

この制度は、婚姻制度とは異なり、法律上の効果が生じるものではありませんが、「一方または双方が性的マイノリティである2人の者が、互いの人生において、互いに協力して継続的に生活を共にすることを約した」ことを宣誓し、パートナーシップの関係にある者同士が宣誓書を茨城県に提出し、県が受領証等を交付することで、パートナーを家族同様に扱うこととする制度です。

県は、令和元年7月に全国の都道府県として初めて創設し、現在県内108組が受領証等の交付を受けています(令和5年10月31日現在)。

詳細はこちら



公営住宅への  
申込みができる

茨城県や水戸市を含む、県内38市町の公営住宅の入居申込みができます。

夫婦と同様の  
サービスが利用できる

携帯電話の家族割引や生命保険の受取人、自動車保険・住宅ローンなどで、夫婦と同様のサービスが利用できます。また、水戸市職員の福利厚生において、慶弔金の給付に適用するなど、市としても取組みを進めています。

医療機関における面会  
や手術の同意ができる

水戸赤十字病院、水戸済生会総合病院、水戸協同病院、水戸医療センターなど、県内の31か所の医療機関で利用できます。

## 性的マイノリティに関する 相談窓口

性的マイノリティ当事者の方、その家族や友人の方が抱える不安や悩みなどに寄り添う相談窓口があります。一人で悩まず相談してみませんか。



### 水戸市 性的マイノリティに関する電話・メール相談

電話相談 ▶ 毎月第2水曜日の18:00~20:00に、相談専用電話(☎233-7830)へ  
メール相談 ▶ 随時受付けていますので、いばらき電子申請・届出サービスから申込み  
※返信には3日~1週間程度かかります。



### 茨城県 性的マイノリティに関する相談室

電話相談 ▶ 毎週木曜日(祝日、年末年始を除く)の18:00~20:00に、相談専用電話(☎301-3216)へ  
メール相談 ▶ 随時受付けていますので、専用フォームから申込み ※返信には1週間程度かかります。



### NPO法人 RAINBOW茨城 LGBT当事者によるメール相談

メール相談 ▶ 随時受付けていますので、メールで、NPO法人 RAINBOW茨城(☎rainbow.iba2017@gmail.com)へ  
※対面での相談も受付けています。事前に、メールでお問合せください。

### 一般社団法人gid.jp日本性同一性障害 と共に生きる人々の会 性別の不一致に関する相談や情報提供

メール相談 ▶ 随時受付けていますので、専用フォームから申込み  
※返信には1週間程度かかります。



飛鳥 斗亜さん

2001年生まれ。市内の高校、大学を卒業後、現在は、東京で働く。ゲイであることを公表し、県内外で支援や理解促進のために精力的に活動中。

—ご自身の性について意識したきっかけは?

小学生の時、男友達が話す恋愛の話についていけない自分がいて、「周りとは違う」ということに薄々気が付いていました。  
確信に変わったのは、スマホを持ち、さまざまなことをインターネットで検索できるようになった中学生の時です。

—これまでの経験を教えてください。

中学生の時は、言動が中性的で女の子とばかり遊んでいた私は、いつしか男友達から距離を置かれ、いじめられるようになりました。周りから「おかま」「ホモ」と呼ばれたり、仲の良かった男友達でさえも口を聞いてくれなくなりました。さらに、高校に進学する時には、駅で他校の生徒から「おかまの子だよ」と言われたこともありました。高校でも居場所がなく、担任の先生に相談すると、「どういった特別扱いをすればいいの?」と。

悩みについて一緒に考えてほしかったんだけど…私は何も言えませんでした。

—周囲の人の反応で嬉しかったことはありますか?

大学に入学し、友人との会話の中で、結婚や恋愛の話になりました。これまで避けてきた話題でしたが、友人が「パートナーとか一緒にいたい人はいないの?」と聞いてくれ、当たり前のように友人との会話の輪に入れたことが嬉しかったです。

—一人一人が持つ意識の中で大切だと思うことはありますか?

何気ない一言で、誰かを傷つけているかもしれないという意識を少しでも持つことが大切だと思います。性的マイノリティについて、テレビでは見たことがあるけど、身近な人にはいないから関係ないと思うのではなく、性的マイノリティとはどのようなものなのかを知ってほしいです。

## 当事者の想い

性的マイノリティ当事者の方に、インタビューしました。

### 安藤さん

40代。トランスジェンダー。30代の時に、性別違和に関する診断を受け、治療のガイドラインに添い、女性から男性への性別適合手術に向け治療中。

—ご自身の性について意識したきっかけは?

幼稚園児の時には、自覚していませんでした。男の子としか遊ばなかったり、女の子は赤、男の子は青といった色分けがとて嫌だった。また、年長の時には、女の子が好きという感情が芽生えていました。

—これまでの経験を教えてください。

中学生、高校生の時は、制服でスカート履かなければいけない男らしく、女らしくしなさいという時代だったので、自分の性に違和感を感じつつも、共存していくしかないんだという思いで過ごしていました。周囲の人からは、「おなべ」「おとこおんな」などと言われることもありましたが、20歳くらいの時、インターネットが普及し、性のあり方が男性・女性の2通りではないことを知りました。  
そして、社会人として働き出すための採用の面接では、トランス

ジェンダーだということを明かしました。しかし、実際働き出すと上司からは「お客さんの前では女性でいて。商品が売れなくなるから」と言われ、性的マイノリティへの認知度の低さを感じました。

—今までの経験を振り返って、何か感じることがありますか?

これまでの人生の中で、男性女性ではなく、一人の人としてどうあるべきなのかと、自分と向き合い続けてきました。自分の思考や気持ちと向き合うことで、人の気持ちも察し、理解しようとする意識が芽生えてきたと思います。今もこれからも自分と向き合い続け、人のためにできることをしていきたいです。

—皆さんに伝えたいことはありますか?

10~20年前と比べると、性的マイノリティへの理解が少しずつ進んできていると思いますが、生活の中で、まだまだ苦しいことや差別的だと感じることもあります。想像できないことや知らないことを受け入れるのは、とても難しいと思います。性的マイノリティへの偏見があり、受け入れられない人がいるということを私も理解したうえで、まずは、一人でも多くの方に、性的マイノリティについて知っていただきたいと思っています。